掛川市・袋井市病院企業団立
中東遠総合医療センター
CHUTOEN GENERAL MEDICAL CENTER

きんもくせい

病院だより
vol.133
令和6年
7月号

認知症とともに生きる

―その人らしく暮らすことを全力でサポートします―

▲ 認知症サポートチームのラウンドの様子

当院は、静岡県から認知症疾患医療センターの指定を受けており、中東遠地域における中核施設の一つとなっています。地域の診療所などからのご紹介により外来診療を行い、認知症疾患における鑑別診断と治療方針の選定、地域包括支援センターや市役所など関係機関との連携にも力を入れています。

認知症患者の増加や若年性認知症は、社会的にも大きな問題になっています。当院の脳神経内科には認知症の専門医が在籍しておりますが、専門領域はもちろんのこと、総合病院としての機能を活かし、多分野の専門医が迅速かつ緊密に連携し、総合的かつ最適な診断・治療が提供できるよう心掛けています。今後も、単にもの忘れなどの症状だけに焦点を当てるのではなく、その合併症の早期発見・早期治療を目指し、地域医療に貢献してまいります。

今月号では、脳神経内科の医師が、認知症とはどのような病気なのか、当院で行っている認知症への取り組みについて詳しくご紹介します。

Instagram ×
掛川市・袋井市病院企業団立
中東遠総合医療センター
CHUTOEN GENERAL MEDICAL CENTER
CHUTOEN_GENERAL_MEDICAL_CENTER

診療科から　認知症とともに生きる
－その人らしく暮らすことを全力でサポートします－

副院長 兼 脳神経内科診療部長 兼 睡眠医療センター長 兼
認知症疾患医療センター長 兼 人間ドック・健診センター長
若井（わかい） 正一（まさかず） 医師

「認知症」とは

「認知症」とは、様々な脳の病気により、脳の神経細胞の働きが徐々に低下し、認知機能（記憶、判断力など）が低下して、社会生活に支障をきたした状態をいいます。

日本では、高齢化が進むとともに、認知症の人も増加しています。65歳以上の高齢者では、平成24年度（2012年度）の時点で7人に1人程度が認知症とされ、年齢を重ねるほど発症する可能性が高まり、今後も認知症の人は増え続けると予想されています。※1　また、65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」と呼んでいます。今日、認知症は、誰もがなりうる病気と考えられています。

※1：出典『都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応』
（平成25年3月・朝田隆）
https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201308/1.html#firsrSection
政府広報オンライン　知っておきたい認知症の基本

もの忘れと認知症は違う？

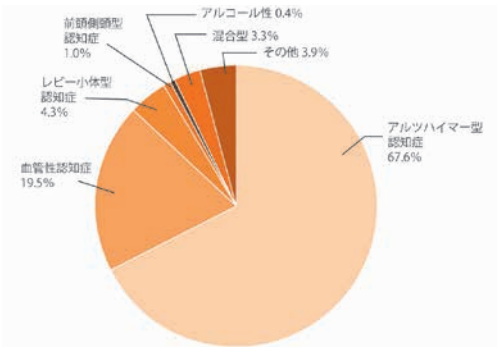
年をとれば誰でも、思い出したいことがすぐに思い出せなかったり、新しいことを覚えるのが困難になったりしますが、「認知症」は、このような「加齢によるもの忘れ」とは違います。

例えば、「加齢によるもの忘れ」は、朝ごはんに何を食べたかを忘れてしまいますが、「認知症」は朝ごはんを食べたこと自体を忘れてしまいます。また、認知症とよく似た状態（うつ、せん妄）や、認知症の状態を引き起こす体の病気（甲状腺機能低下症など）もいろいろあるため、早期に適切な診断を受けることが大切です。

アルツハイマー型認知症

認知症の原因となる病気について、最も多いのが「アルツハイマー病」で、代表的なものは以下の図のとおりです。

認知症の原因となる病気

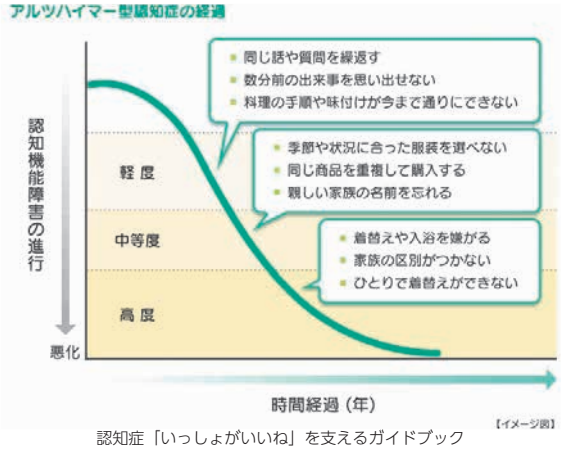


出典：厚生労働省『都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応』
（平成25年5月報告）

1906年、ドイツの学会で、アロイス・アルツハイマーというドイツの精神科医が、後にアルツハイマー病と名付けられる疾患を初めて症例として報告しました。アルツハイマー型認知症は、アルツハイマー病が原因で発症する認知症のことです。

アルツハイマー型認知症は、長い年月をかけて脳に、アミロイドβ、リン酸化タウというタンパク質がたまり認知症をきたすと考えられています。記憶力の低下で始まり、日付・曜日や居場所がわからなくなる見当識障害、料理などの作業の要領が悪くなる実行機能障害、判断力の低下、言葉が円滑に出ないなどの「中核症状」がみられます。さらに、イライラして怒りやすくなることや、ものを盗まれたと主張する被害妄想などの「行動・心理症状」が現れることがあります。「行動・心理症状」は「周辺症状」、あるいは「BPSD」とも呼ばれます。

アルツハイマー型認知症は、いつの間にか始まり、緩やかに進行していくのが特徴です。人によって進み方や症状の現れ方は様々ですが、おおむね下の図のような経過をたどります。



認知症「いっしょがいいね」を支えるガイドブック
（監修：横浜総合病院・横浜市認知症疾患医療センター センター長　長田 乾 先生）より

アルツハイマー型認知症の診断

認知症の診断では、専門の医師が患者さまとご家族に問診をし、症状がいつから起こり、どのような経過をたどっているか、生活上でどのような問題があるかなどを聞いていきます。ここで、認知症と間違われやすい状態（加齢によるもの忘れなど）を排除し、認知症かどうか判断していきます。認知症の疑いがある場合は、脳の状態を調べるMRI検査や身体の状態を調べる血液検査などを行います。

アルツハイマー病の新しい治療薬

2023年9月25日、日本のエーザイ社と米国のバイオジェン社が開発したレカネマブ（商品名：レケンビ）が、「アルツハイマー病による軽度の認知障害、および軽度の認知症の進行抑制」の効能・効果で厚生労働省より薬事承認されました。

この新しい治療薬は「アルツハイマー病の原因に働きかける世界ではじめての治療薬」として大きな期待が寄せられています。これまでの治療薬は、認知症によって起こる様々な症状に「対処する」ための薬であったのに対し、新しい治療薬は「認知症」という病気そのものの進行を遅らせることができる薬です。

当院でも新薬を使用した治療を始めています。「アルツハイマー病による軽度認知障害（MCI）」と「アルツハイマー病による軽度の認知症」の方で、医師が処方可能と判断した方が対象です。薬は飲み薬ではなく、点滴する薬で、定期的に通院していただく必要があります。薬の使用を始める前にはMRI検査を行い、他にも、薬の中に入っている成分で過敏症を起こしたことがないかなど、医師による様々な確認が行われた後、アミロイドPET検査または髄液検査によりアミロイドβが脳に蓄積していることを確認し、治療が開始されます。アミロイドPET検査は、穿刺による髄液検査に比べ、体への負担が少なく検査することができます。アミロイドPET検査を実施できるのは、中東遠地域では当院だけです。当院で新薬の処方が可能ですので、まずは、かかりつけ医にご相談をお願いします。

認知症の予防

認知症の予防には、規則正しい生活やバランスのとれた食事が効果的とよく言われますが、実際に、適度な運動、禁煙、塩分控えめな食生活など生活習慣病の予防を行うことで、認知症発症のリスクを下げるということがわかっています。

当院の取り組み

当院は静岡県から「認知症疾患医療センター」の指定を受けており、地域の中核医療機関の一つとして、院内外で認知症に関する様々な取り組みを行っています。ここからは当院の取り組みをご紹介していきます。

①DST（認知症サポートチーム）

DSTはDementia Support Teamの略で、多職種が連携して質の高い認知症ケアを行うために発足した認知症サポートチームです。医師、薬剤師、精神保健福祉士、作業療法士、認知症認定看護師で構成され、患者さまの入院中の生活リズムを整え、ストレスを軽減し、安心した入院生活を送れるようサポートしています。また、患者さまだけでなく、ご家族に対しても認知症患者さまとの生活の仕方や、症状に対する考え方やアドバイスを行うなどの活動も行っています。

▲ 当院のDST（前列左が若井医師）

②院内デイケア

高齢化に伴い、認知症の患者さまが入院するケースも増加しています。当院では2018年から平日の午前中に病院の中でデイケアを開催しています。院内デイケアでは、体操をしたり、歌を歌ったり、輪投げやゲーム、脳トレなどのレクリエーションを約1時間程度行っています。毎日一定の時間に活動することで生活のリズムが整い、楽しみを持つことは脳が活性化し、認知機能低下の予防や改善を図ることにつながります。実際に、認知機能低下の予防や改善をされた方も多く、ケアの効果が得られています。

▲ 院内デイケアの様子

③若年性認知症の方へのサポート

当院では65歳未満で発症する若年性認知症の方へのサポートにも力を入れています。これには院内のスタッフだけではなく、地域包括支援センターや市役所の関係機関などと連携し、若年性認知症の患者さまやご家族が集うイベントの企画や各種相談、サポートを行っています。

▲ 地域の関係機関との連携を強化しています。

おわりに

認知症は今や誰もがなり得る病気の一つとなっています。「何かおかしいな？」と感じたら、年齢のせいにせず、まずはかかりつけ医に相談してください。認知症と診断されても、当院のある中東遠地域には、住み慣れた場所で、あなたらしく暮らすことができるサポート体制が整っています。

私たちは、患者さまやご家族が認知症とともに生きていくことを医療の面から全力でサポートし、地域に貢献していきます。

ご存知ですか？ 認知症サポーター

認知症サポーターとは

認知症サポーターは何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」です。

認知症サポーター養成講座

自治体または企業・職員団体（従業員を対象とする）が実施する「認知症サポーター養成講座」（90分）を受講すれば、だれでも認知症サポーターになることができます。認知症サポーター養成講座の受講を希望される方は最寄りの自治体事務局へご相談ください。

第41回　医療市民講座のご案内 －がん講習会－

入場料無料

がんをテーマに医療市民講座を開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

日　時　令和６年８月３日（土）　午前10時～正午（受付午前９時30分～）

場　所　月見の里学遊館　うさぎホール（袋井市上山梨４丁目3-7）

定　員　180名（予約制・先着順）

演　題
①「変貌するがん医療　わたしの経験」
講師：堀田 喜裕医師（副院長兼がんゲノム診療センター長）
②「「がん」ってどんな病気？－原因から治療までをわかりやすく－」
講師：京兼 隆典医師（副院長兼外科統括診療部長）
③「遺伝性乳がん卵巣がん症候群について」
講師：田中 晶医師（産婦人科診療部長）

申 込 み　７月16日（火）～８月２日（金）
ホームページ専用フォーム、または
問合せ先へ電話、FAXのいずれかで申込み

問合せ先　経営戦略室
電　話：0537-21-5555㈹
ＦＡＸ：0537-28-8971㈹

▲ 申込みはこちら

10月第３日曜日はジャパン・マンモグラフィ・サンデー　日曜日に乳がん検診が受けられます

日　時　令和６年10月20日（日）午前８時15分～正午

募集人数　マンモグラフィ　50人
乳腺エコー　40人　※定員を超えた場合は抽選

対 象 者　20歳以上の女性
※妊娠中の方や、妊娠の可能性がある方、授乳中の方（卒乳後６ヶ月前の方）、豊胸（美乳）手術を受けた方、V-Pシャント、ペースメーカーやポート等が埋め込んである方、血糖測定器が装着されている方は、マンモグラフィ検査はできません。

申 込 み　ご希望の検査内容、住所、氏名、生年月日、年齢、電話番号を電話又はWEB予約システムで申込み

募集期間　８月１日（木）午前９時から９月12日（木）午後４時30分まで

問 合 せ　人間ドック・健診センター
電　話：0537-28-8028（午前９時～午後４時30分、土日祝を除く）

場　所　人間ドック・健診センター

検査内容・料金　※女性技師が検査を行います
①乳腺エコー …… 3,740円（税込）
②3Dマンモグラフィ２方向（トモシンセシス）…… 9,900円（税込）
③3Dマンモグラフィ２方向（トモシンセシス）＋乳腺エコー …… 13,640円（税込）
④マンモグラフィ２方向 …… 5,500円（税込）
⑤マンモグラフィ２方向＋乳腺エコー …… 9,240円（税込）

検査結果　後日郵送（約４週間後）

▲ WEB予約

RECRUIT
2025年４月採用職員募集

当院リクルートサイトに募集情報を順次公開予定

▲ 詳細はこちら

現在募集中の職種

正規職員　薬剤師、歯科衛生士、事務職員

地域に貢献　研修充実　安定　子育て応援

【採用担当者から】　身分は地方公務員です。研修制度や福利厚生が充実しているため、長く働ける環境が整っています。医療のプロフェッショナルとして共に高みを目指す、そんな方からの応募をお待ちしています。

5月の診療実績

1日あたりの患者数		
	入院	403 人
	外来	1,116 人
紹介率		90.3 %
逆紹介率		102.6 %
病床利用率		80.7 %
平均在院日数		9.2 日
手術件数		581 件
救命救急センター受診者数		1,402 人
救急搬送件数		559 件

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ　https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。中東遠 検索

スマートフォン・タブレットからアクセスする際には QR コードをご利用ください

〒436-8555
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1
TEL 0537-21-5555

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC2093 号